

KTK

NO. 78

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道24-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

お花 いっぱい 咲かせます

こんにちは あらぐさです。
ほくたちわたしたちは
ごみポイでみちのそうじを
しています。

これからは はなさかたいも
がんばります。

おはないっぱいさせます。

2010年12月20日 あらぐさ

あらぐさ☆はなさか隊は、井ノ内地域周辺の道路沿いにある花壇の手入れや清掃を行っています。あらぐさの利用者60名と職員で結成し、京都府(土木事務所)の「さわやかボランティア・ロード事業」の認定を受け、活動を行っています。

「さわやかボランティア・ロード事業」とは、“府が管理する道路の一定区間で清掃や除草・植栽管理等のボランティアを行う仕組み”です。昨年12月に、乙訓土木事務所認定式があり、認定書を受け取りました。これは、その時、利用者代表5名の所信表明です。

(2面につづく)



東日本大震災により被害を受けられた皆様にご心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興のために 私たちもできる限りの支援をいたします。

「きれいなえ」「ありがとう」「ございます」 地域の1員として活動——あらぐさ☆はなさか隊

みんな、
ゴミ箱と
思ってるん
ちゃうか



「ごみポイ」とは、はなさか隊結成前から行っていた地域清掃活動です。あらぐさの周りの竹やぶや道路に落ちていたゴミを拾って集めています。活動の際は、“STAFF”という緑の腕章をつけ、手袋・バケツ・ゴミハサミを持って出かけます。集めてきたゴミは、燃える物・燃えない物に分け、空き缶やペットボトルは中をきれいに洗い、あらぐさで処分しています。

きっかけは、自主通所している利用者の「道にゴミ落ちてんねん」の一言でした。「それなら、きれいにしてみよう」ということで、ごみをポイする（きれいにする）ごみポイ活動を始めました。
「とったとと」と、テレビタレントの真似をして空き缶を

高々とかかげる人や、ゴミを率先して探し、もくもくと集める人など、毎回5人くらいで行っています。

始めてみると、本当にたくさんゴミが落ちていたことを発見しました。空き缶、たばこの吸い殻、おにぎりやパンのビニール、大量のマンガやポスターが落ちていたこともありました。なかには、片方だけの靴も捨ててあり、「靴脱いで、どうしたんゆるなあ」と、みんなで不思議に思ったこともありました。

「ゴミ捨てたらあかんなあ」「みんな、（道路を）ゴミ箱と思ってるんちゃうか」と話す人もありました。

よかった
よかった



竹やぶで見つけたタイヤやゴルフバッグは、処分の方法が分からず、長岡京市に問い合わせました。“大きすぎて あらぐさですてられなさそうで

す”と手紙や写真を持って役所へ行ったところ、「個人の土地なので、行政が処分することはできないが、所有者さんに連絡してみます」「行政としても不法投棄がないか、パトロールを行っています」というお話でした。後日、竹やぶを見に行くと、タイヤがなくなっており、「なくなってる」と、みんな喜びました。

その後、長岡京市に環境美化活動の申請を行い、ゴミ袋の支給を受けて、ごみポイ活動を続けています。

また、以前、話し合いの中で、「困っていることは何ですか？」の質問に、「横断歩道（が渡れないこと）」と答えた利用者がいました。あらぐさの東側を南北に通る府道は拡幅工事中で、歩道や信号機が整備されておらず、自動車のスピードが速くて、車の流れがなかなかとぎれない状況でした。

利用者の自治会で話し合い、横断歩道の写真を撮ったり、“しんごうがいつつくのか、お

しえてください”の手紙を書くなどして、市役所に届けました。交通対策係では、“いつつくかは、わかりません”という返事でしたが、しばらくして信号機が設置され、「あれ、信号ちゃうか」「出来てる」とみんな喜びました。

地域に目を向け、考え行動したごみポイや横断歩道の取り組みを経て、新たに地域で活動し、発信・交流していく機会として始めたのが、あらぐさ☆はなさか隊です。



楽しかった また植えな



1月21日、府道沿い3つの花壇にパンジーを植え始めました。それまでに、花壇の石拾い、肥料入れなどの準備を行い、初めての活動日を迎えました。

当日は、大阪・枚方で園芸作業を行っている、わらしべ会のみなさんにご協力いただき、総勢25人で活動を行いました。

花を手渡す人、スコップで土を掘る人、花を植える人、それぞれ役割を分担しながら、パンジーを植えました。わらしべ会さんに教えていただきながら、パンジーの配色を考えたり、一列に揃えて植えたり、等間隔に並べたりなど、花壇作りには様々な工夫や配慮が必要なことが分かりました。

初活動を終えての感想は、「楽しかった」「また植えな」「水やりしよ」というものでした。それから約1ヶ月かけて、全ての花壇にパンジーを植え終わりました。

3月には、真ん中の花壇に「あらくさ☆はなさか隊」という看板がたちました。花壇へ行くくと、看板がたっていて、みんな

な「いいなあ」と、その出来栄えに満足した様子でした。

会議で 意気込みを 発表

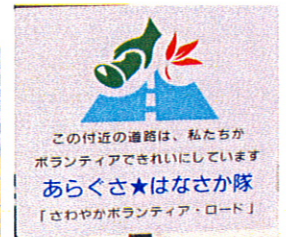


はなさか隊の定例の活動日は、月に2回、第1木曜日と第3金曜日です。また、さわやかボランティア・ロード事業団体の交流会議もあり、代表が参加します。

先日の会議では、新規団体とということで紹介され、意気込みを発表しました。他の団体の方々も多数いらつしやり、会議に参加した人からは、「おっちゃん いっぱい いた」「まだ行きたい」と報告がありました。また、京都府のホームページにも登録し、活動の状況などを発信しています。

定例の活動日以外にも、天候に応じて水やりや手入れをしています。通りがかった近所の人たちから「きれいねえ」と声をかけられ、「ありがとうござ

います」と答えるはなさか隊のメンバー。「喜んでたなあ」「きれいって言うてもらえたなあ」と、みんなで喜んでいきます。これからも地域の一員として、活動を続けていきたいと思っています。(中山恵美子・記)



「ゴミ捨てたらあかんなあ」「信号機がほしい」

地域に目をむけ みんなで行動——ごみポイからはなさか隊へ

外出が好きになってほしい

あらぐまにサポートセンターができてよかった

「移動支援」の給付を受けていましたが、ヘルパーもショートステイも利用していなかったりエさん（25歳）。「サポートセンターあらぐま」（居宅介護事業所）ができたことで、ヘルパーさんとの外出をはじめました。

（取材：前田幸子・真殿尊子）

コミュニケーションのちから

リエさんは、小学4年生の頃、言葉が話せず、いらだちで人をひっかくなどの行動が出はじめ、医師の治療をうけ薬を出してもらったよつになりました。そして、大きくなるにつれ、「何かさせられる」というストレスや緊張をうけて、吐く発作も出るよつになりました。向日が丘養護学校の高等部時代、クラスの日々の外出（買い物、散歩など）がむずかし

くなりました。また、障害児学童保育への参加も、高等部の終わり頃には、「行かない」という日もありました。いろいろな取り組みを見直し、あらぐま入所後も、外出やイベントへの参加などへの配慮がされるようになりました。

卒業の頃、「音声・言語機能の喪失」ということで、身体障害者手帳の交付を受け、今は、とても大切になっているひらがなのキーボードを打つと音声が出る「トーキングエイド」という福祉器具が給付されました。

学校の言語訓練の先生の指導で始められた「マカトン法」（コミュニケーション方法）や文字板の使用で、「トーキングエイド」の使用で、コミュニケーションの力や1日の生活を見通す力もつきました。今では、「あらぐま」での生活も落ち着き、元気に通所しています。

「さをり織り」に集中して

「あらぐま」での仕事は「さをり織り」です。仕事は、色糸選びから始まります。「マカトン法」の身振りで、「空」は「青糸」、「唇」は「赤糸」と、職員に伝えたり、色糸の写真カードから好きな色の糸を選びます。それから集中して1日、「さをり織り」に取り組み、素敵な布を織りあげます。

仕事の時間は、朝10時からお昼までと午後1時から3時半まで。間に休憩や肩こりをほぐすストレッチをしています。

完成した約4mの長い布をもって「へび（みたい）」と、見せるリエさん。「わあ、きれいだ」「できた

ね」と声をかけられ嬉しそうです。また、自分の作品を見に作品展へ出かけます。



しています。

あらぐさでは、月に1度、通院日にあわせて外出をしています。リエさんは外食が好きで、レストランに出かけて昼食をとっています。ラーメン、ステーキ、スパゲティ・・・文字カードで職員とやりとりしてメニューを決めています。

お手伝いやテレビの観賞

リエさんは、「あらぐさ」から帰宅すると、すぐに手洗い、うがいをしておやつを食べます。それから、次の日の準備をします。そして職員が書いてくれた連絡帳をお母さんといっしょに読むことが楽しみです。「トーキングエイド」を使って休んだ友達のことなど簡単なニュースを伝えたりもします。

帰宅後は外出をしないリエさんは、お母さんの夕食作りを手伝います。マヨネーズなどを冷蔵庫から出したり、玉ねぎや人参の皮むきも上手にやっています。

また、『名探偵コナン』のビデオを操作して見たり、NHKドラマ『江』に出てくる歴史上の人物を新聞で確認するなど、楽しみに

ヘルパーさんと買い物に

お母さんの悩みは、リエさんの「外出嫌い」です。以前は、毎週日曜日、図書館へ行っていました。体調を崩したりして間があいたためか、今では行きたがりません。

そんな時、「あらぐさ」のサポートセンターができて、1年前、「あらぐさ」から「リエさんが、外に出る機会をつくりませんか」と提案がありました。

リエさんは、テレビ番組を紹介する雑誌「プラス」を見るのが大好きです。発売日である水曜日、4時にヘルパーさんと今里にある本屋さんに出かけることにしました。いろいろな本を見てから「ステラ」を買い、5時に帰宅するという外出が実現しました。

「あらぐさから声をかけてもらったので、「行動援護」の制度を）使いやすかった」「リエさんが知っている人がサポートセンターにおられたので、心強かった」とお母さんはおっしゃいます。

生活の広がり期待して

土曜日や日曜日は、おうちで過ごす日々ですが、お母さんは「大好きな時代劇が見られる太秦映画村なんかに行ったら、本当は喜ぶのではないかな？」と、リエさんの楽しみや生活の広がり期待をしながら語っておられます。またショートステイ（短期入所）も利用したことはありませんが、リエさんの気持ちを大切にしながら、将来のことを気遣われるお母さんの思いが伝わってきました。

リエさんのご家族は7人。お母さんは介護保険外の事業所に登録して5年目になります。同居されているご両親の協力も得て、安心して勤めておられます。

・・・・・・・・・・・・・・・・

自立支援法によるサービスは、事業所との「契約や手続き」が必要となります。しかし「契約や手続きが面倒」との理由で利用されていない方がありますが、リエさんのように、日中の活動以外にも生活をひろげる活動に利用される方が増えてきたことに嬉しく思っています。インタビューを終えました。



日時 2011年 6月12日(日)

第1部 後援会総会 12:45～13:45

第2部 学習会 14:00～16:00

*後援会員でない方も、ご自由にご参加いただけます。(無料)

講演「障害の重い人たちの地域での生活づくり」

～訪問の家 ケアホームの歩みと実践～ (仮題)

講師 社会福祉法人訪問の家 ケアホーム統括課長 田崎憲一氏

会場 障害福祉センターあらぐさ 1階ホール

長岡京市井ノ内広海道42-3 電話075-953-9212

*このご案内にて総会通知とさせていただきます。



訪問の家では、昭和61年、横浜に全国に先駆けて重度重複障害の方達が通う「朋」を開所して以来、地域で障害の重い人が暮らし続けるために必要な、さまざまな取り組みや事業を起こし、地域生活を切り拓いてきています。

現在、生活介護事業所(3ヶ所)、地域活動ホーム(ショートステイ・相談事業等)(2ヶ所)、高齢者デイサービス事業(2ヶ所)、障害者ケアホーム(9ヶ所)、ヘルパーステーション(訪問看護・居宅介護等)、診療所を運営。

平成6年、ケアホーム第1号の「きゃんばす」開所以来、平成19年までに合計9ヶ所のケアホームを開所しました。23年12月に、10番目のケアホームを開設予定。

講師の田崎憲一氏(50歳)は、当初からケアホームに携わり、現在ケアホーム統括課長として、障害の重い人たちの生活づくりに奮闘されています。

多数のご参加をお待ちしております

後援会更新と新年度会費について
6月開催の後援会総会後に、更新と納入をお願いいたします。今号の「通信」には振替用紙を入れておりません。次号に同封させていただきますので、ご理解とご協力をよろしく願います。

東日本大震災で被害にあわれた作業所・施設・事業所、障害のある方々やその家族への支援について

甚大な被害をもたらした東日本震災の被災地では、復旧・復興が急がれていますが、少なくない作業所やグループホームなどが流出や損壊をし、自治体によっては、障害のある人の安否の確認もすすんでいない状況もあるようです。

あらぐさの事業所が加盟する「きょうざれん」は、災害対策本部を設置し、被災地の状況を集めるとともに、全国に支援活動の呼びかけを行いました。

あらぐさでは、呼びかけにこたえ、支援募金を行い300,285円(4月19日現在)を集めることができました。

きょうざれんでは、次の口座を開設していますので、ご協力をお願いいたします。

郵便振替

口座名義 きょうざれん

自然災害支援基金口

口座番号 0010007186225

また、あらぐさの村山容祥統括事業長と栗野賢職員が、福島県での支援活動に参加しました。詳しくは、次号にて報告させていただきます。

シリーズ あらぐさと私 ⑩

うたのボランティア

木村 伸介さん (写真左)

水野 博子さん (写真右)



あらぐさではいろいろな方がボランティアで支援しています。月1回、利用者さんに歌声を届けているグループがあります。木村伸介さんと水野博子さんです。

木村さんがボーカルの担当、ライフハウスでジャズを歌っている方です。水野さんが三線による伴奏、沖縄の音楽に魅せられ三線を弾いています。

4月21日の午後、Aグループの部屋にBグループの仲間も集まり、銘々聴きやすい姿勢で開会を待っています。オープニングは「手のひらを太陽に」です。透き通るような音色の伴奏に合わせて、優しい歌声が響きます。みんな笑顔で体を動かしています。「少年時代」「大きな古時計」など次々と聞き慣れた親しみのある歌が演奏されます。エンディングは「今日の日はさようなら」で、悲しい顔を見せる利用者さんもありました。

午後のひととき、普段と違うとてもリラックスした表情で楽しんでいました。

コンサート終了後お二人にお聞きしました。

○いつからボランティアを始めましたか?——「4年前のクリスマス会から。もう4年がすぎるとはですね」

○演奏されての感想は?——「みなさんノリノリで、楽しいです。体を動かし歌ってくれるのでうれしいです」

○あらぐさの印象はどうですか?——「みなさんが笑顔で挨拶してくれれます。また来なくなる暖かな施設ですね」

今後もしよろしくお願ひします。

あらぐさ製品を
売っている
お店紹介

オープンラウンジ
「カフェ エポカ」



JR長岡京駅西口の南側(大阪寄り)にある大きなビルが「バンビオ」(長岡京市立総合交流センター)です。駅前広場に面した1階にオープンラウンジ「カフェ エポカ」があります。

フェアトレードのコーヒーや、おしゃれなランチなどが揃っています。

開店当初から「あらぐさクッキー」を置いていただいています。他にも、乙訓の福祉施設の製品も置いておられます。

障害のある方の就労・雇用の場として、独立採算が達成できるように、経営の工夫や努力をされています。ぜひお立ち寄りください。すてきなお店です。

(前田)

長岡京市神足2丁目3-1
バンビオ1番館1階

平成4年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2011年5月23日発行 KTK増刊通巻第3644号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会 〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階 京都難病連内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信